### 普及活動情勢報告(平成30年2月分)

中央東農業振興センター農業改良普及課

### ユズでの就農に向けた農家研修を開催



1月22~30日、ユズで就農を希望している農業担い手育成センターの研修生2名が、香美市の生産者園で農家研修を行いました。

今回の研修は、技術習得や地域習慣の把握、人脈づくりを目的と して開催し、農業改良普及課が農業担い手育成センターと連携して 支援しました。

研修生からは、「とても勉強になった。」と満足の声が聞かれ、受 入農家からは、「熱心で期待ができる。」と好印象だったようです。

今後も農業改良普及課は、ユズ産地の新規就農者の確保、育成に向けた取組を支援します。

# JA 南国市(南部)・十市のシシトウ合同現地検討会を開催しました



2月13日にJA南国市(南部)とJA十市のシシトウ部会で合同 現地検討会を開催し、総勢19名が参加しました。検討会は2本垣 根仕立て、4本仕立て低位摘心のほ場で行いました。

農業改良普及課からは、低位摘心や整枝方法、基本技術について 紹介しました。

生産者からは、「今の状態はきれいに見えるが困っている病害虫はないか?」「自分のほ場とは全然違う」等の意見が聞かれました。次回は、樹高が高くなる春先頃に開催する予定です。

農業改良普及課は、今後も現地検討会等を通じて、整枝方法やかん水管理など基本技術についての情報を提供し、生産安定を支援していきます。

## 南国市の3JAシシトウ部会合同で生産者大会を開催しました!!



2月6日、南国市内の3JAが合同でシシトウ生産者大会を開催しました。

農家、市場関係者、農協などの関係機関を含め、総勢 68 名が参加しました。農業改良普及課は、事務局として会議の運営、関係機関との役割分担などの調整を図るとともに産地ビジョンに基づく産地の取り組みについて講演しました。今年は、5 市場の担当者に出席をお願いし、市場には出荷場でのパック詰め体験や現地ほ場でシシトウの栽培状況を視察してもらい、大会では生産者との意見交換を行ってもらいました。市場からは、安定出荷へのお願いがありました。

農業改良普及課では、産地ビジョンを推進しながら生産量の拡大 等を進め、産地の維持・強化に向けて取り組んでいきます。

#### 高知大学生に対して農業の魅力について情報発信しました



1月18日、高知大学農林海洋学部の2年生、3年生67名を対象に、南国市のシシトウ栽培で新規就農した農家と南国市担当者、農業改良普及課職員が講師となり「出前授業」を開催しました。

新規就農者からは、農業を目指すきっかけになった経緯、農業担い手育成センターや農家での研修の様子、独立就農してからの実体験・感想などを説明しました。市や農業改良普及課からは、就農にあたっての支援制度、南国市の農業や環境制御技術などについて紹介しました。

学生からは「シシトウ栽培の名人を目指していくのか」「シシトウの収穫後、パック詰め作業はどうしているか?」などの質問がありました。農家ならではの貴重な体験談や今の農業の魅力について情報発信ができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら担い手確保・ 育成に向けた活動を実施していきます。

#### 香美市と香南市が合同で新規就農者を歓迎!



2月9日に香美市立中央公民館で、香美市、香南市合同の新規就 農者歓迎会が開催され、H29年度の新規就農者8名が出席しました。

両市市長とJA組合長から歓迎の挨拶があり、来賓、新規就農者が紹介されました。また、香美市から補助制度、公庫、JAから制度資金、農済から施設共済、農業会議から農業者年金の情報提供がありました。農業改良普及課は、会の設定や運営を支援しました。

その後、指導農業士との意見交換では、指導農業士自身の就農の きっかけや体験談を基に、新規就農者の思いや悩みについて様々な アドバイスがありました。新規就農者は「地域とのコミュニケーションをとることと、先輩農家などから指導や援助、意見をもらうこ との大切さ」を再確認したと思います。

農業改良普及課は、新規就農者の早期経営安定に向けて支援していきます。

## 温室みかん部会山北支部現地研修会



2月15日、JA 土佐香美温室みかん部会山北支部が現地研修会を 開催し、生産者15名が参加しました。た。

農業改良普及課は、炭酸ガス施用実証ほとミカンハダニ対策の IPM 実証ほの状況について報告しました。

炭酸ガス施用については、これまで現地研修会で繰り返し説明してきた結果、若手生産者5名が炭酸ガス発生機の導入を検討しています。また、慣行技術でのハダニ防除が困難になっているほ場が増えていることから、IPM技術に期待する生産者もみられました。

農業改良普及課では、実証農家や関係機関と協力して、環境制御技術と IPM 技術について、実証試験で良好な結果を示し、現場での技術確立と普及を目指します。